



志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本設計

基本設計概要版

令和4年10月 株式会社石本建築事務所

1. 計画コンセプト

1-1 設計（意匠説明書）

■基本計画の概要

（志木市民会館及び志木市民体育館再整備基本計画より抜粋）

基本理念

みんなに愛され、だれもが主役になれる。
そんな場所を、志木市らしい市民力を生かした活動を通じてつくります。

方針1：コンパクトな市にあった利用しやすい施設の整備

- ・誰もが立ち寄りやすく、利用しやすい施設
- ・ライフサイクルコストを意識した施設

方針2：多様なニーズに対応し、利用者に配慮した施設の整備

- ・人口構成の変化や多様化する市民ニーズに柔軟に対応した施設
- ・誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインに対応した施設

方針3：まちに新たな賑わいを創出する施設の整備

- ・様々な目的を持った来訪者が集うことにより生まれる賑わいを市全体に広げる拠点となるような施設

方針4：災害や自然環境に配慮した施設の整備

- ・災害時における防災拠点としての機能を有する施設
- ・市の歴史や自然環境、まちなみ景観に配慮した施設

施設コンセプト

志木市の未来と歴史文化を大事にし、市民に親しまれ、市民力を育む複合施設

中心市街地の賑わいをまちに広げ、誰もが立ち寄りやすく、周辺環境と景観に配慮したコンパクトな佇まい

- ・賑わいの中心になっている志木駅前中心市街地と暮らしの中心になっている市役所周辺までを繋ぐ施設として、賑わいを生む立ち寄りやすい施設とする。
- ・国重要有形民俗文化財となっている田子山富士塚からの景観の向上と周辺の住宅への圧迫感に配慮した計画とする。

地域連携と機能融合のクロスオーバーにより賑わいを生む市民活動の拠点

- ・いろは遊学館、志木小学校や本町通りからの人の流れをとりこみ、回遊性を持たせることで地域との連携を高めた施設とする。
- ・様々な目的を持って集まった人々がふれあう場を造り、新たな賑わいと出会いを生む施設とする。

平穏な日常から災害時まで市民を支える、環境配慮型の「文化・スポーツ・防災活動の拠点施設」

- ・地域の防災機能向上に配慮した施設計画とする。
- ・防災拠点である志木小学校と連携し、救援物資の集積場所等の防災活動を担う。
- ・環境とライフサイクルコストに配慮した計画とすることで永く市民に愛される施設とする。



1. 計画コンセプト

1-2 ワークショップ報告書

ワークショップ全体のテーマ

「市民が使いたおせる施設を、みんなで一緒に考えよう」

実施スケジュール：令和4年6月～10月 会場：志木市民会館/パルシティ 203・204・205 会議室及び志木市役所 市民ホール

参加者：市民23名（ABCグループに班分け）/ファシリテーター 学識2名 / サポーター 大学生8名 / 市職員3名 / 設計者 ※消毒と検温等により感染症対策を実施して開催

第1回ワークショップ - 私の志木 -

スケジュール

- ①参加者自己紹介
- ②どこまで進んでいるの？市民会館・体育館
- ③ワークショップ
- Q1. 志木市中心市街地のどこへ行きますか？
- Q2. どんな場所だったら来ますか？

方法

志木市広域図にQ1,2毎に2色の付箋を貼り、参加者にとっての志木市について議論した。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

今回のワークショップでは、地図上に意見を貼り、場所的な散らばりを調べました。全体的な傾向として、志木駅の近くとパルシティの近くに二極化していて、宗岡などの地域には貼られた付箋が少ないと言えるでしょう。キーワードもたくさん出ていて、特に「子ども」に関する意見が多く挙げられました。「子どもの居場所」については長く議論が交わされており、志木市の中心街には意外と子どもの居場所がないのではないか？と問題提起されたように思います。他にも、飲み屋街のある市民会館といったユニークな案が出たり、若手が頑張っていた班があったりと良いワークショップになったと思います。



第2回ワークショップ - 3つの入口と街との関係を考えよう -

スケジュール

- ①新庁舎見学
- ②ワークショップ
- Q1. 3つの入口から街を見るとどんな関係がありますか？
- Q2. 3つの入口で、どういう出来事が起きますか？

方法

志木市役所の市民ホールでワークショップを行った。1階平面図兼配置図にQ1,2毎に2色の付箋をはり、3つの入り口について、各班タイトルをつけて発表した。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

Aグループの「Open the door」やBグループの「青空〇〇」など、普段は屋内でやっているような活動を屋外とつなげようという意見がたくさん寄せられました。Cグループのタイトル「休憩したい」からは、休むことのできるようなスペースが意外と街中になく、公共施設に求められているということに気付かされました。



第3回ワークショップ - 新しいホールを使いこなそう！ -

スケジュール

- ①ワークショップ
- Q1. 平土間だからこそこできるホールイベントを考えよう
- Q2. 様々な立場になりきってイベント計画を立案しよう

方法

Q1では参加者それぞれが思いつくイベント、Q2ではロールプレイングを行いながら、実現可能性の高いイベントを1階平面図の拡大図を用いて各班でまとめた。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

Q1では、自分たちが開催するイベントだけでなく、誰かを誘致してやってもらうイベントの提案も多かったです。Q2は、Aグループはホールを展示スペースとして捉えたときに、展示会を多彩なイベントと抱き合わせる企画の提案でした。展示会以外にも活用できる面白いアイデア企画だと思います。B・C共同グループは本来、演者と観客を入れるホールを演者だけに貸そうという発想が良かったですね。観客を入れると狭いホールも演者だけでなく広く使えるし周りのもっと広い施設やアリーナなどを活用したイベントもできるという面白い提案でした。



第4回ワークショップ - いろはみち・いろはひろばを使いこなそう -

スケジュール

- ①ワークショップ
- Q1. いろはみちの使い方を考えよう
- Q2. いろはひろばの使い方を考えよう

方法

第3回と同様に1階平面図の拡大図を使って、いろはみち、いろはひろばそれぞれに模型を置きながら使い方を立体的に考えた。

ファシリテーターによるまとめ抜粋

今回のワークショップでは目的があるようでないような公的な通路状の空間を、皆さんの発想でたくさんの魅力的な案ができました。また、施設を運営していく組織の中に市民発想のようなものがしっかりと入って、市民の皆さんも発言だけではなく、実際に体を動かして自分たちの公共施設をどんどん魅力的にしていくということの可能性を感じたワークショップでした。



第5回ワークショップ - 今までのワークショップを振り返ろう -

学生によるまとめでは、各回のワークショップで出た意見を分類し、第1回から第4回までの意見の推移を分析した。「運動できる場所」「子供・学生の居場所」「特別なイベントに使う場所」「目的のない場所」「皆と交流できる場所」「飲食できる場所」「建物や周辺を活かしたアイデア」「他にはない独創的なアイデア」といった計501件の多様な意見の出た活発なワークショップとなった。

参加者からは、「日常使いできる使いこなせそうな施設になりそう」「若い人が使える施設にしてほしい」「世代間の交流の機会となり楽しかった」などの感想を頂いた。



2. 計画概要

2-1 仕様概要書・面積表

■計画概要

・本計画は、既存市民会館のある敷地に市民会館と市民体育館の機能を併せ持つ複合施設として再整備する計画である。敷地面積は、基本設計段階で後で示す東側の敷地（A-014 現況測量図を参照）が追加されたことにより、7,272 m²となった。計画地は都市計画法に基づく第一種中高層住居専用地域及び第二種住居地域に指定されており、同地域では大規模施設を立地することができない既存不適格建築物の位置づけとなっているため、関連機関と協議中である。

■敷地概要

項目	法令の項目	内容
建築主		志木市長 香川武文
所在地		志木市本町1丁目11番50号
敷地面積(m ²)		7,272m ²
用途地域	建法48条-9、10	第1種中高層住居専用地域、第2種住居地域
防火地域等	建法61条	建築基準法22条区域
地域・地区等	建法58条	高度地区(25m)
建蔽率	建法53条	70/100 (第1種中高層住居専用地域、第2種住居地域+角地)
容積率	建法52条	200% (第1種中高層住居専用地域、第2種住居地域)
日影規制	建法56条-2	4時間/2.5時間 (高さが10mを超える建築物:平均地盤面からの高さ4m)
斜線制限	建法56条 建令131~135条	道路斜線制限:勾配1.25 隣地斜線制限:20m+勾配1.25
接道		北側(市道)約4m、西側(市道)約6m、南側(市道)約16m

■建物概要

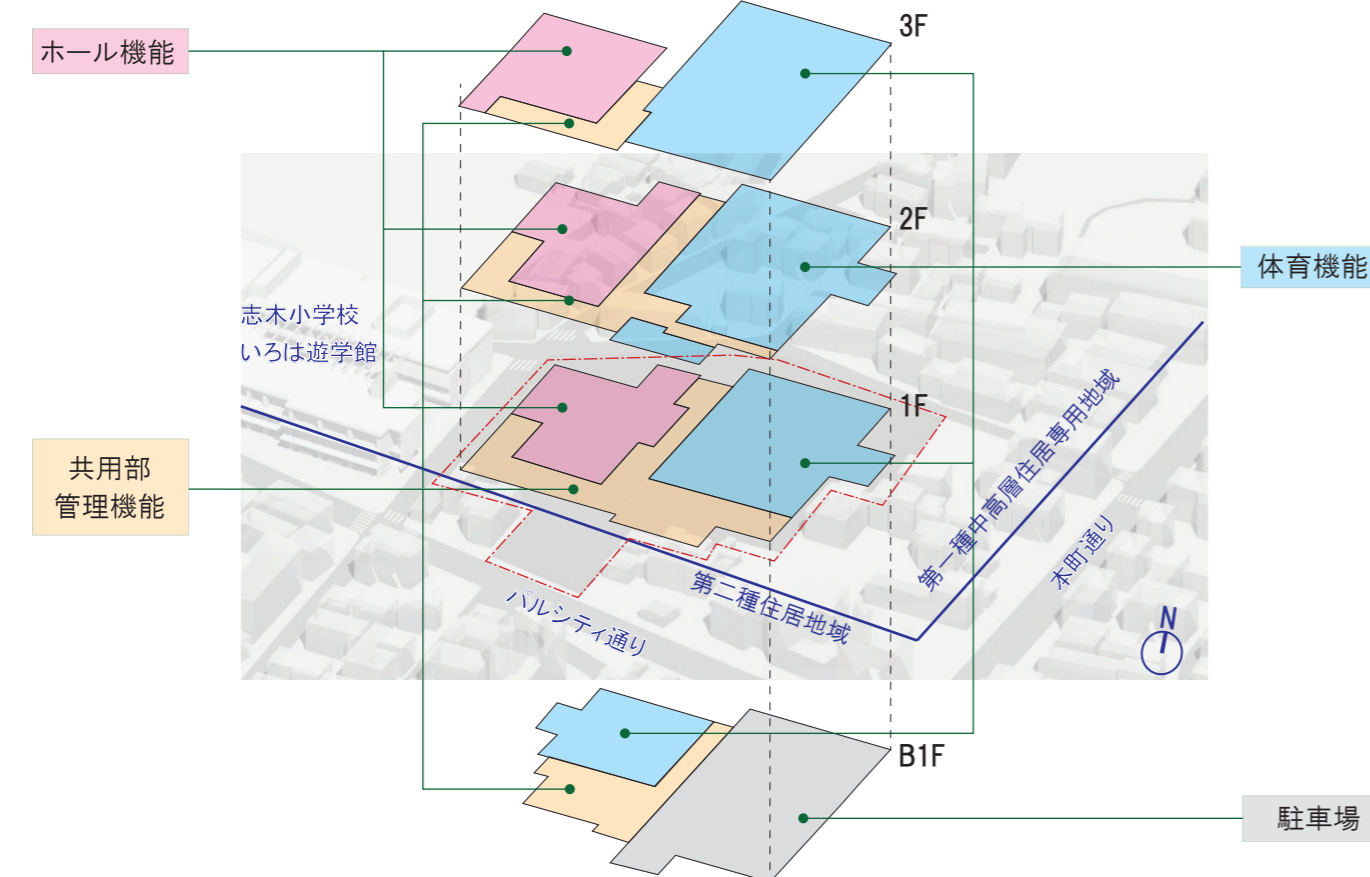
項目	内容
用途	①公会堂又は集会場②体育館又はスポーツの練習場
建築面積	5071 m ²
延床面積	12,671 m ² ※緩和可能面積(駐車場):2,188 m ²
高さ(m)	15.4m
規模	地上3階、地下1階
構造	RC造、一部S造
駐車台数	約74台
駐輪台数	約100台

■面積表 (m²)

ホール面積(A+共用部)	2,809
体育館地上面積(B地上部+共用部)	5,778
体育館地下面積(B地下部+共用部)	1,622
駐車場(駐車場+地下倉庫等)	2,462
合計床面積(A+B+C+D)	12,671
合計床面積(A+B+C+D)-駐車場	10,483

■施設構成概要

地上3階・地下1階の構成で、コンパクトに機能を集約。



2-2 敷地概要・現況調査

■風土・歴史

・志木市は、3本の川がシンボルの街であり、新河岸川の舟運で栄えた商業都市として発展した。特に、江戸時代初期から明治時代にかけては江戸と川越を結ぶ交通の重要な動脈として栄えた。また、引又河岸場周辺に市場が設置され、商業の街として志木市の元が形成された。東上線が開通すると、舟運は衰退したが、昭和40年頃から都心まで20分という好条件から人口も急増し、ベッドタウンとしても発展してきた。また、自然や田園風景も残された住みよい街でもある。

■地形

・志木市は、武蔵野台地の北東周縁部に位置し、市の南西半分は標高20メートル程度の平坦な台地が分布している。台地の縁は洪水の心配がなく、崖を降りれば湧き水を得られ、台地で畑、低地で水田をつくり、魚介類も採ることができ、大変住みやすい場所である。また、縄文時代以降の遺跡が多数発掘されている。・市の北東半分には荒川や新河岸川の氾濫と蛇行によって形成された概ね5メートル前後の氾濫低地が分布する。氾濫低地には、河川の蛇行の痕跡とも考えられる微高地が分布している。・さらに、当敷地を含むエリアは、比較的海拔高度が高く起伏の少ない平坦面で、関東ローム層と呼ばれる火山灰土で覆われている。

■交通機関

・志木市の主要な玄関口は東武東上線志木駅となっており、駅から各方面へのバスが高頻度に運航し、市民の足となっている。また、市内の各所にシェアサイクルのポートが設置されており、自転車利用が活発である。計画地は、東武東上線志木駅から直線距離で約1kmの古くから栄える中心市街地に位置している。



▲新河岸川舟運の河岸 (引用元: webサイト「wikipedia」)



▲志木市の地形 (引用元: 第3期志木市環境基本計画)

2. 計画概要

2-2 敷地概要・現況調査

■敷地見取り図

- ・志木駅と市役所を結ぶ本町通りとパルシティ通りの交差点にほど近い、住宅街の中に位置している。そのため、周辺住宅への影響に留意した施設計画、工事計画を行う必要がある。
- ・接道条件としては、南側の市道昭和通り小学校線（パルシティ通り）は16m、西側は約6m、北側は約4mの道路に接している。
- ・敷地西側は、志木小学校・いろは遊学館に隣接しており、アトリウム空間との連続性に配慮する必要がある。そのため、南側の道路を車両出入口とし、西側の小学校に対して安全性に配慮した計画とした。



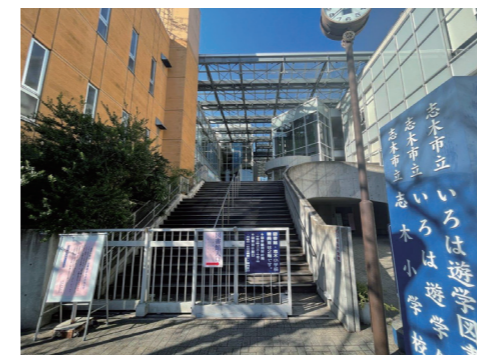
①パルシティ通り



②パルシティ通り（既存市民会館）



③パルシティ通り



④いろは遊学館・志木小学校



⑤市道第1194号線



⑥市道第1194号線



⑦市道第1196号線



⑧市道第1196号線



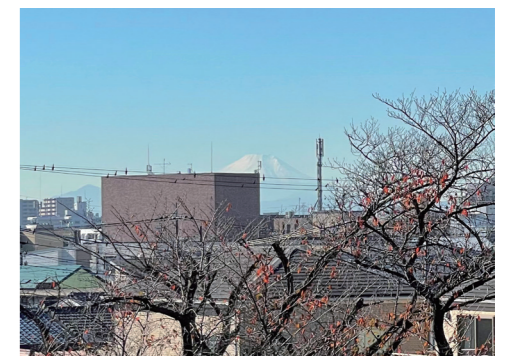
⑨本町通り



⑩江戸道



⑪田子山富士塚



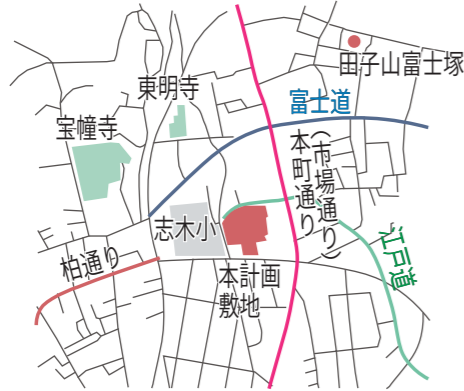
⑫田子山富士塚より富士山をみる

3. 施設構成計画

3-1 配置計画

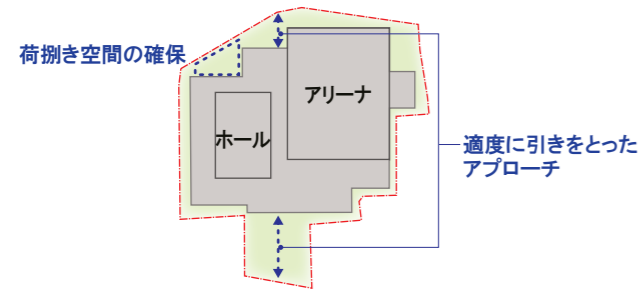
■敷地周辺の志木の魅力

・本計画地周辺には江戸道、富士道などの古い道をはじめとして、微妙にカーブする道が残っており歴史文化を感じられる街路空間がいたるところに残っている。また、低層の住宅や寺社が多く庭の緑が豊かという特色をもつ。



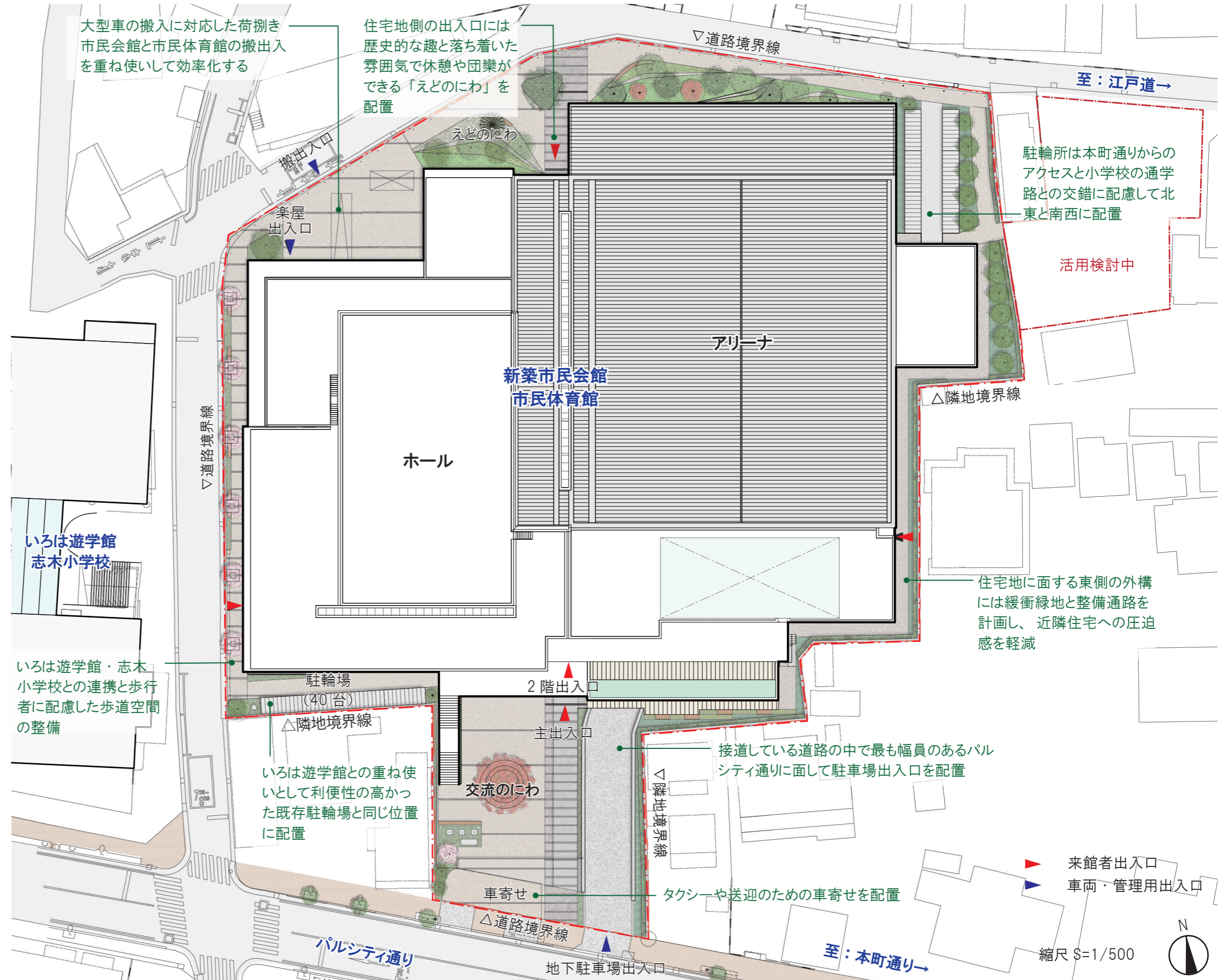
■コンパクトな施設配置

・市民会館機能のみの敷地に新たに市民体育館機能が加わることから、平面的に余裕が無いため、アリーナを東側、ホールを西側に効率的に配し、建物の外形をコンパクトに抑えている。これにより、南北のエントランス前に引きを持たせ、大規模な施設に相応しいアプローチ空間を確保している。



■通り抜けのできる動線計画

・本計画では三方に出入口を設け、それらを「にわ」と豊かな共用部でつなぐことで、市民活動の賑わいに囲まれながら通り抜けの出来る構成とする。駐車場の出入口を道路幅の広いパルシティ通り側に設け、小学校の通学路から離すことで、児童の安全に配慮する。
・駐輪場を北側と西側に配置し、2か所からのアプローチに対応する。

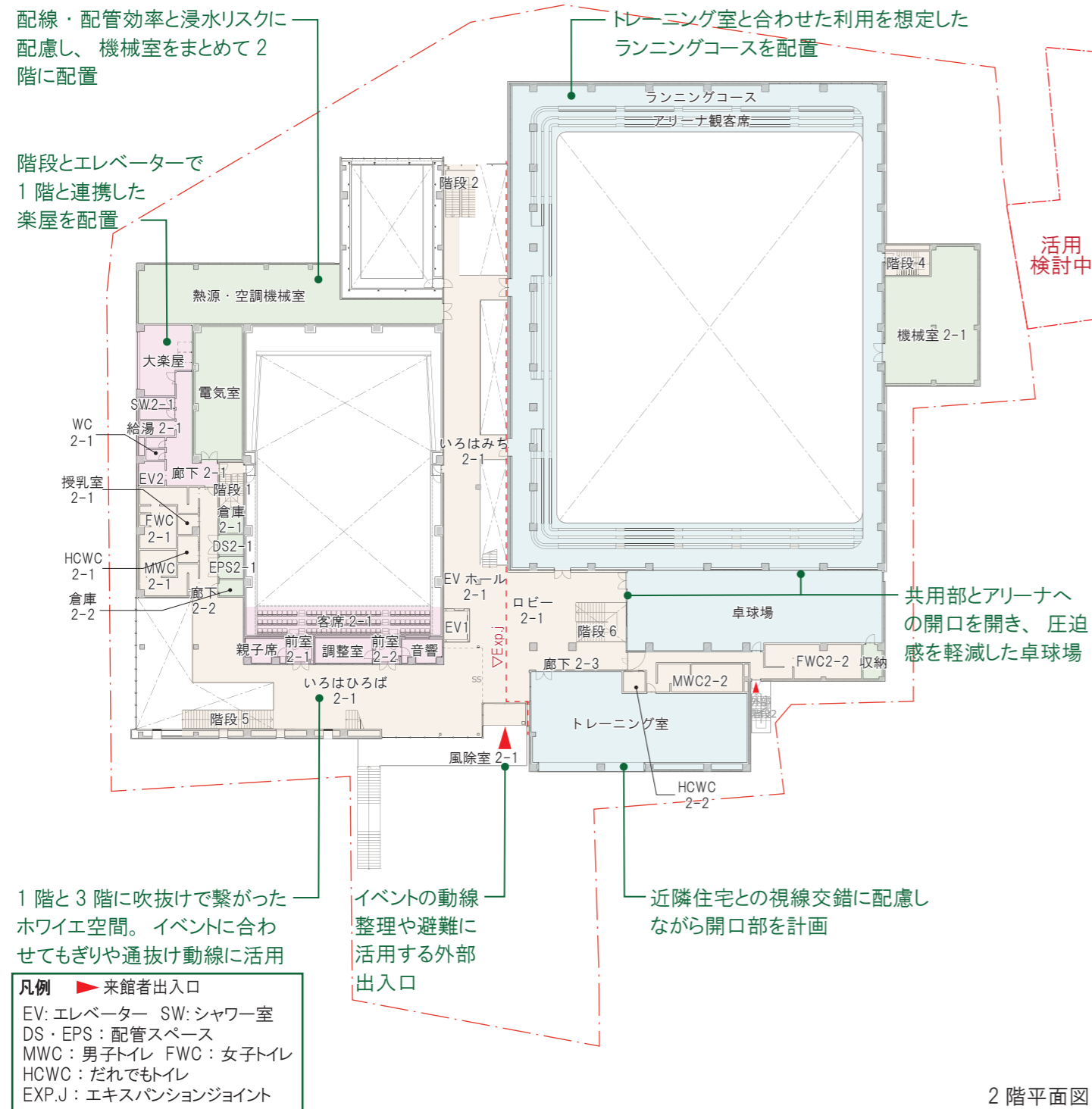


3. 施設構成計画

3-2 各階平面計画

■2階計画

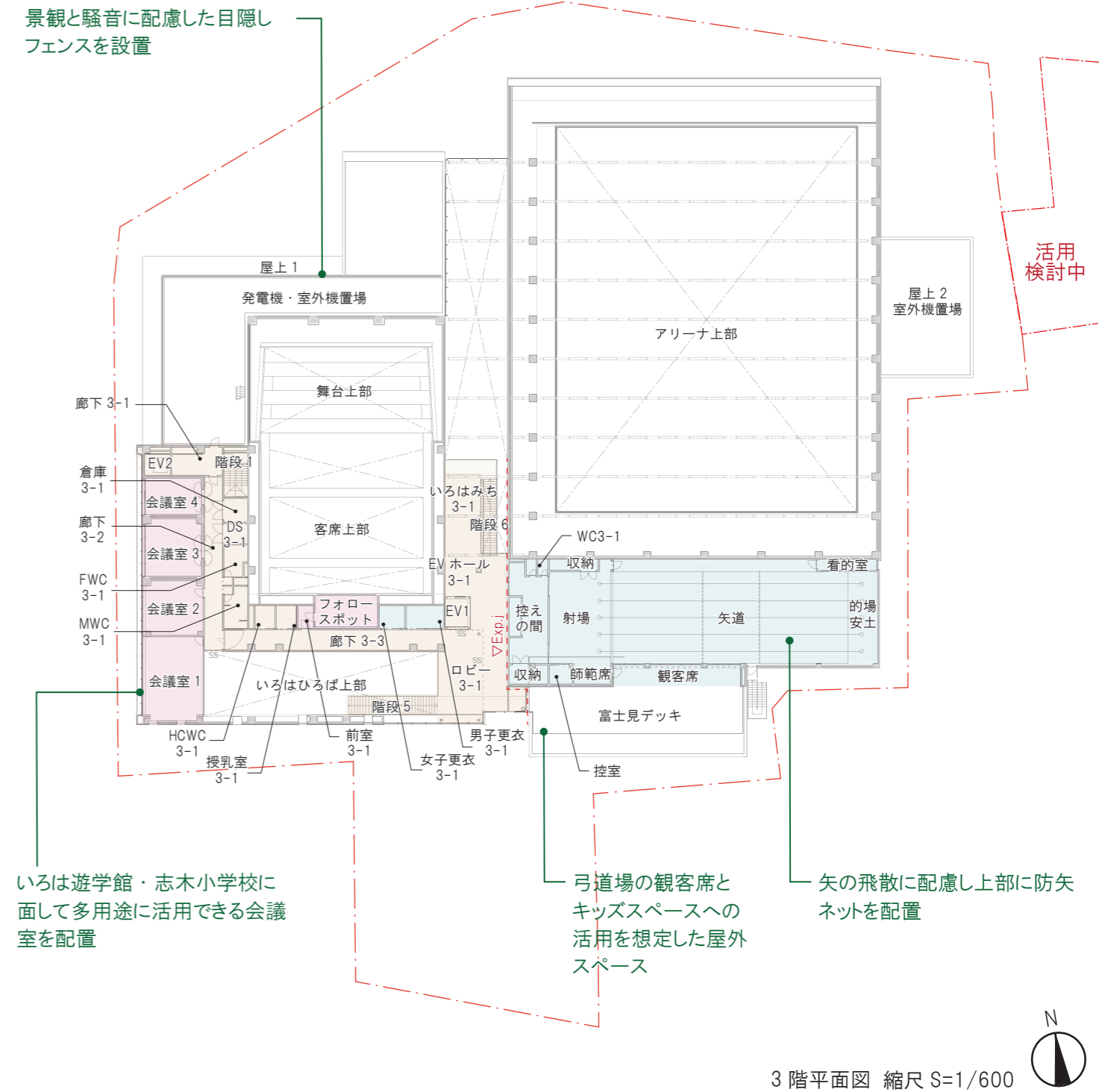
- ・ホールとアリーナ客席への大人数のアクセスに配慮し、メインアプローチとなる南面には2階出入口を設けている。
- ・日常の利用者が多いトレーニング室と卓球場を2階に配置し、1階の通り抜け動線との交錯を回避している。



2階平面図

■3階計画

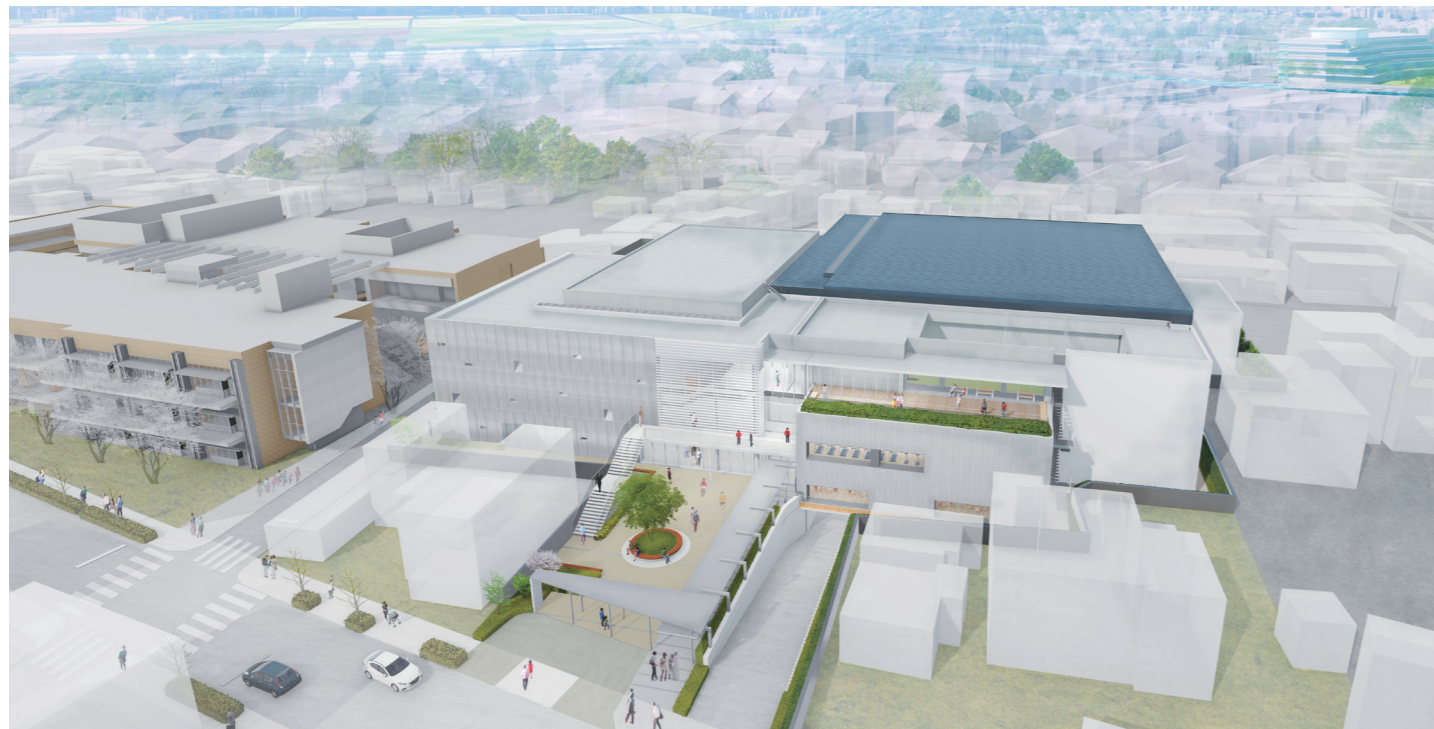
- ・利用目的が明確な弓道場とスタジオ、会議室を3階に配置し、イベント等の混雑時にも利用可能な計画とする。
- ・1階の「いろはひろば」「いろはみち」と吹き抜けで繋がり、一体的な共用空間を形成している。



3階平面図 縮尺 S=1/600

3. 施設構成計画

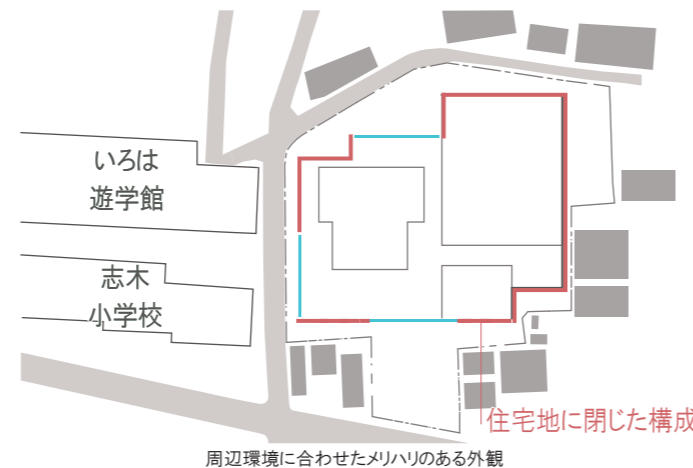
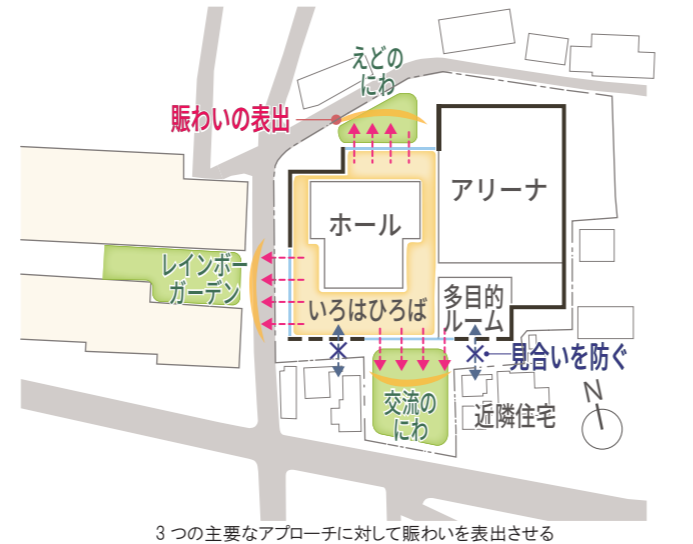
3-3 外観計画



■3つのアプローチに面して賑わいを表出させる
 ・アプローチとなる前面の庭に対してはガラス張りの透明性の高い外観とし、内部の市民活動を街路に表出。

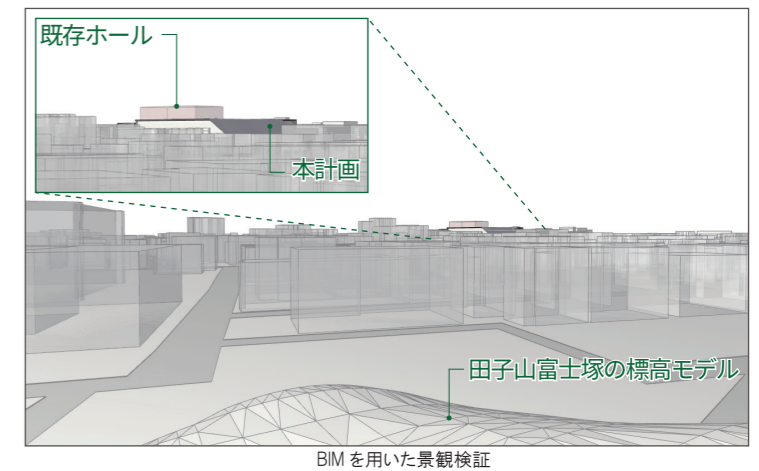
■周辺環境に合わせた「開・閉」メリハリのある外観
 ・住宅に面する外壁は開口部を最小限としてプライバシーの保護や騒音・光害の環境負荷を抑える。
 ・隣接する周辺環境に合わせた「開・閉」メリハリのある外観を構成。
 ・敷地南側の隣地に挟まれた場所は、建物を配置しない前庭空間とすることで（一部屋外階段有り）、両側の近隣に対して、現在の日照条件に変化が無く、視線の見合いの無い圧迫感のない計画。
 ・最も高いホールを敷地の中央付近の小学校寄りに配置することで、近隣に威圧感のないよう配慮。

■圧迫感を抑えた外観
 ・住宅地に建つ建築として、建物ボリュームを分割し、全体を3階に抑えコンパクトに計画。周辺との離隔を確保し、植栽等を配することで圧迫感を軽減する。
 ・外壁には温かみのあるレンガ調タイルやシンプルな素材を採用しながら、騒音や断熱等の機能性に配慮した計画とする。



■田子山富士塚からの景観配慮

- ・田子山富士塚は国重要有形文化財に指定されており、山開きやお祭りが開催されるなど、志木市民にとって特別な場所である。
- ・現状の田子山富士塚からの眺望は富士山の稜線の半分に既存市民会館のフライタワーが被っており、その改善が望まれると考え、本計画ではフライタワー高さの比較検証を行った。
- ・約500席へ縮減されるホールに求められる舞台設備機能や可能演目を満たしつつ、最も富士塚からの景観への影響が軽減されることから、フライタワーの高さを約15.4mとする方針とした。



BIMを用いた景観検証

	20m	18m	15.4m
フライタワーの高さと富士塚からの見え			
フライタワーの位置	既存 舞台フライ センターライン 田子山富士塚 ・可視範囲の向上 ・フライ袖をカットし柔らかい印象に	プロポーザル 舞台フライ ・可視範囲の向上 ・可視範囲の拡張	基本設計 舞台フライ ・可視範囲の向上
略断面図			
音楽系演目	◎	◎	◎
演劇系演目	◎	△	△
富士山の眺望	△	○	◎
特徴	客席前部をワゴン式として舞台レベルを1階床レベルまで下げ、既存館と同じ舞台機能でフライタワー高さを1m低減します。	プロセニウム高さ8mで3つ折り緞帳、巻上式 Horizont幕、吊バトンでの幕の高さを6mにするとフライタワーが3m低くなります。	プロセニウム高さ8mで横引き緞帳、巻上式 Horizont幕、背景幕を隠す場合は横引きとすることでフライタワーがなくなります。

フライタワーの高さと富士塚からの景観

4. 各室計画

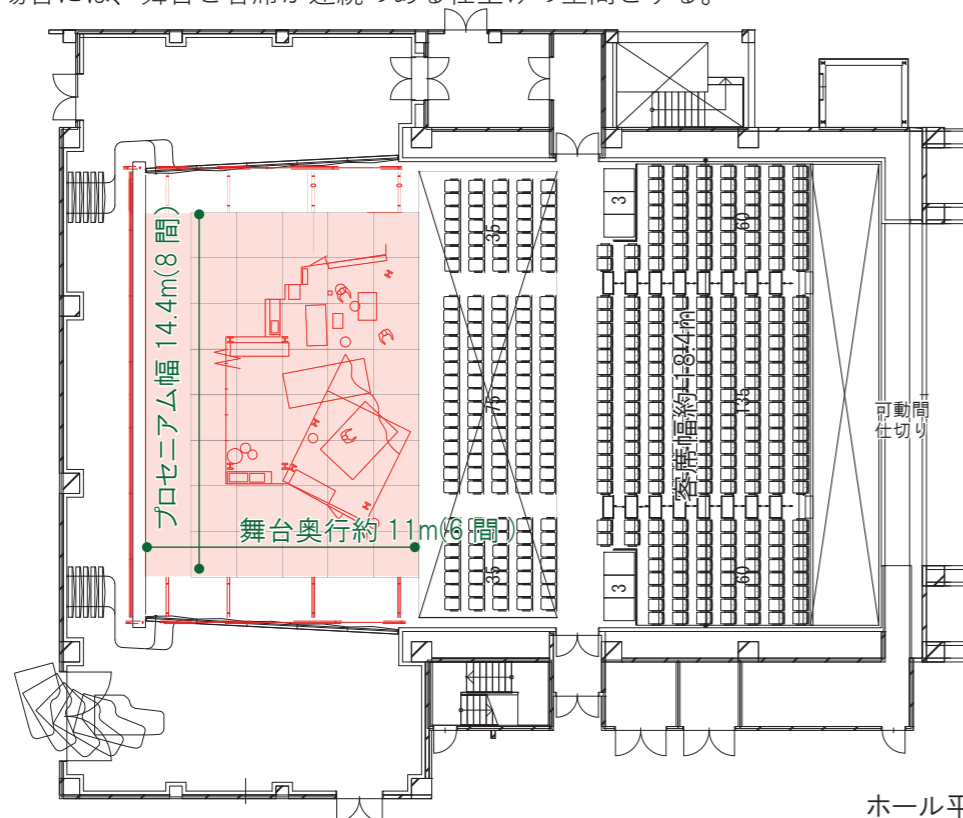
4-1 ホール計画



ホール内観イメージ

■平面計画

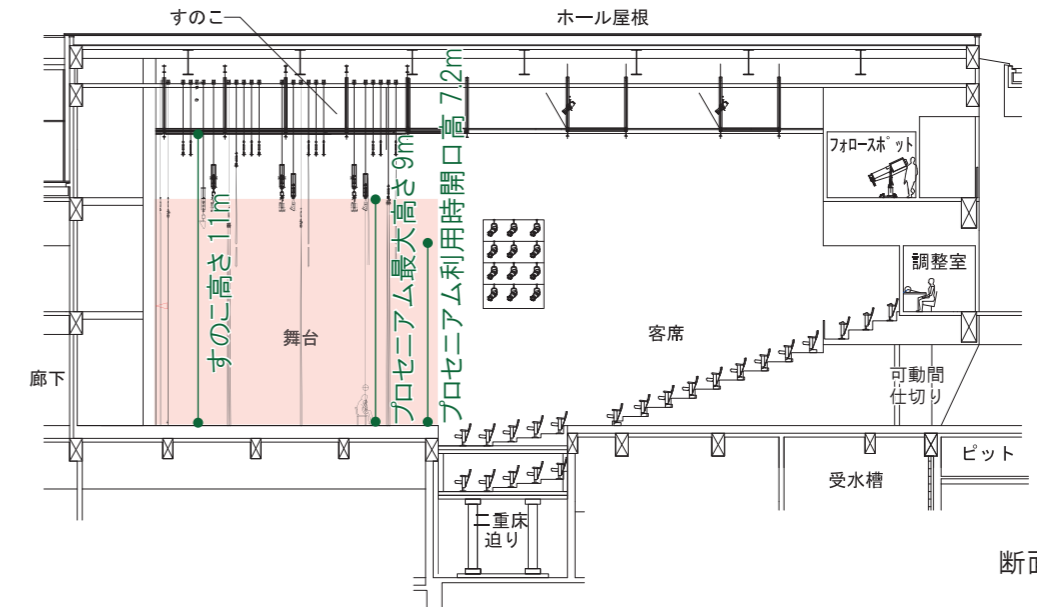
- ・プロセニアムの開口幅は最大 18.4m とし、客席の幅も同寸法として舞台と客席を一体の空間とする。
- ・主舞台は幅 14.4m (8 間) × 奥行 11.0m (6 間、緞帳～水平幕) とし、袖舞台を確保する。
- ・音響反射板は設けず舞台の壁や天井を反射面として音響の反響を得る形式とする。
- ・客席段床を可変し、舞台と同レベルとすることで、500㎡程度の平土間を確保する。
- ・平土間とした場合には、舞台と客席が連続のある仕上げの空間とする。



ホール平面図 縮尺 S=1/300

■断面計画

- ・プロセニアムの開口高さは最大 9m とし、音響反射板利用時に舞台と客席を一体の空間とする。
- ・プロセニアム利用時の開口高を 7.2m (24 尺) を基本とする。
- ・音響反射板は設けず、舞台と客席の一体のシューボックス空間として音響の良い空間とする。
- ・舞台スノコの高さは 11m 程度を想定する。
- ・客席は矩形の空間とし、効率の良い平行の客席配置とする。
- ・舞台と搬入レベルを同一レベルとし、搬入のしやすさに配慮する。
- ・移動観覧席と迫り、客席ワゴン(エアキャスター)を利用することにより、段床と平土間を両立する。
- ・前舞台の迫りの床は二重構造とし、下段の床に客席ワゴン(エアキャスター)を収納できる仕様とする。

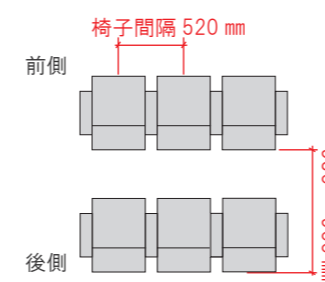


断面図 縮尺 S=1/300

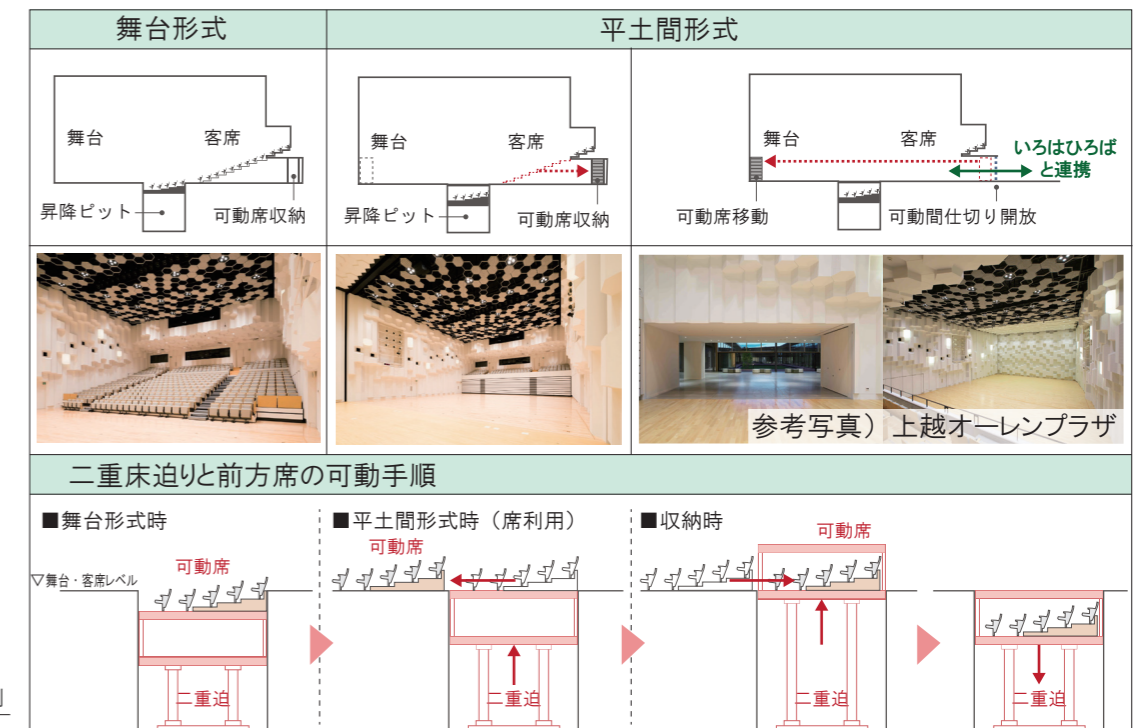
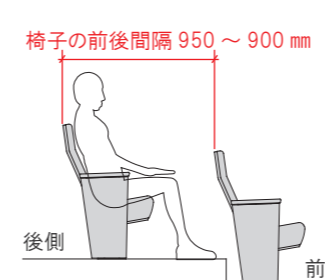
■客席計画

- ・ホールの座席間隔は、観客の座り心地・快適性を考慮し、他事例との比較検討により、方針を確定する。
- ・客席は、前方 5 列を昇降ピット形式とし、2 階席を除くその他客席を可動席とすることで、1 階ホール空間を平土間で利用できる計画とする。

〈平面図〉



〈断面図〉



4. 各室計画

4-2 アリーナ計画

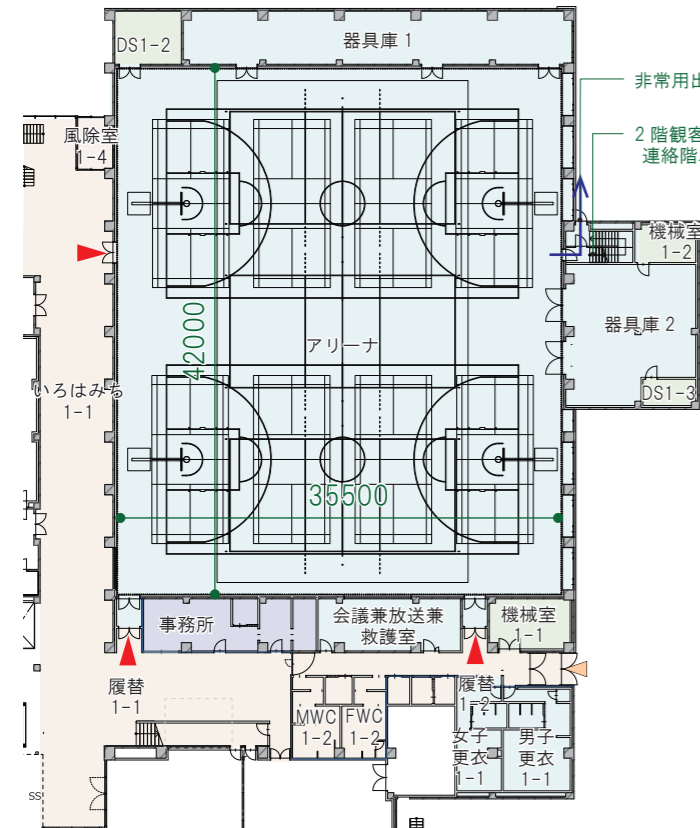


アリーナ内観イメージ

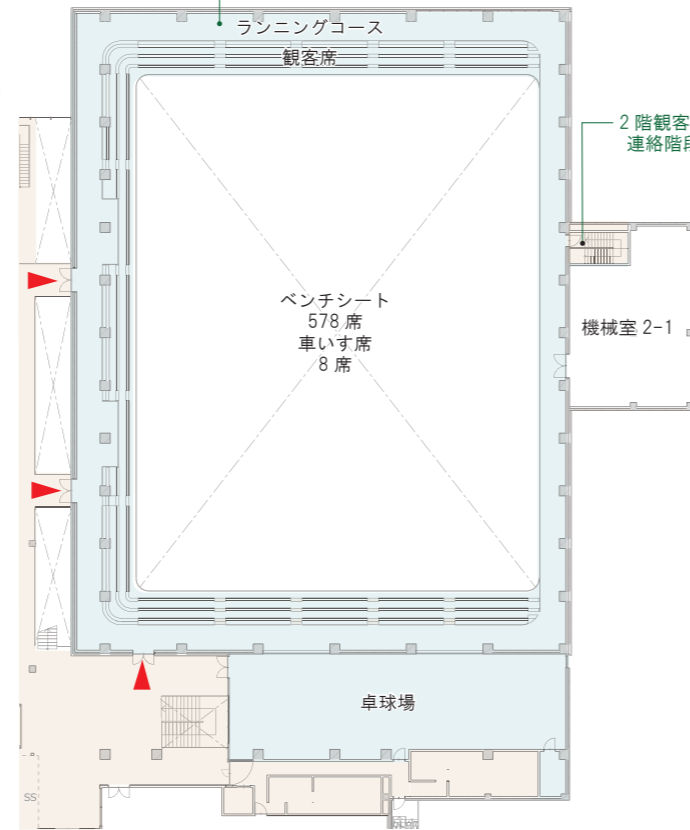
■アリーナ

- ・1階アリーナへは南側に2カ所、いろはみち側から1カ所の出入口を設ける。
- ・2階観客席へは南側に1カ所、いろはみち側に2カ所の出入口を設ける。
- ・それぞれの出入口に履替場所を設置する計画とする。
- ・アリーナと観客席を繋ぐ階段を東側に設ける。

ベンチタイプ
(既存体育館と同等)
W420×D800×H260

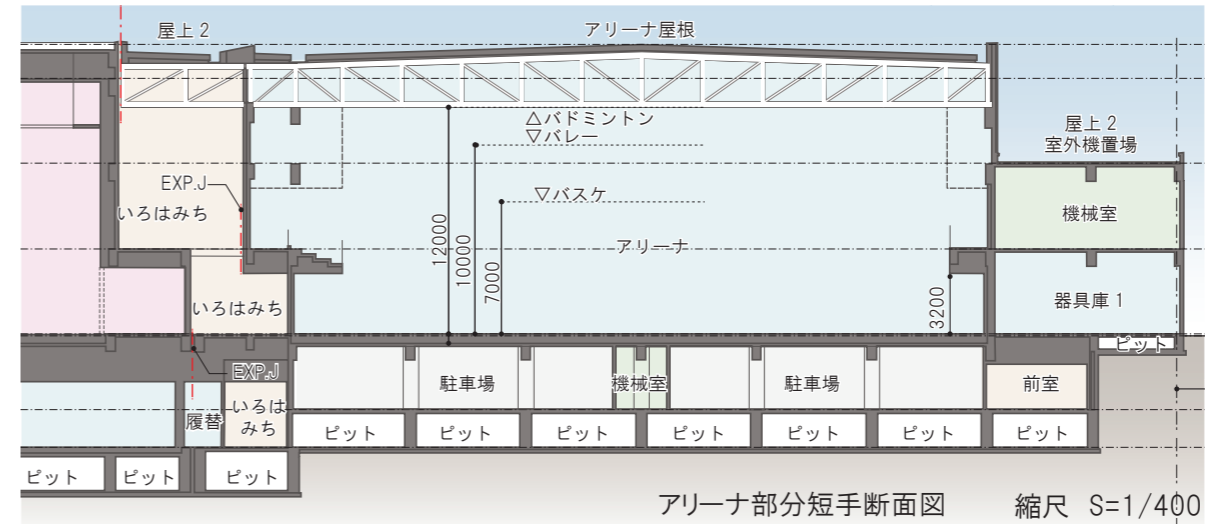


1階アリーナ部分平面図



2階アリーナ部分平面図

縮尺 S=1/600



アリーナ部分短手断面図 縮尺 S=1/400

凡例

- EV: エレベーター
- SW: シャワー室
- DS・EPS: 配管スペース
- MWC: 男子トイレ
- FWC: 女子トイレ
- HCWC: だれでもトイレ
- EXPJ: エキスパンションジョイント

■アリーナ客席比較

・コストと半面利用時の観客席からの見えのバランスが良い、コの字固定席案となった。

	可動席		固定席
	L字配置案	コの字配置案	コの字配置案
席数	△	○	◎
コスト	○	○	◎
備考	可動席収納時のスペースが広い	客席のバランスがよい	客席としての利用のみ

■アリーナ床材比較

- ・バスケットボール連盟へのヒアリングより提案されたスポーツ用長尺弾性塩ビシートの可能性を検討した。
- ・主に移動式バスケットゴールで床が傷つくことによるメンテナンスの有無を近隣の体育館へ視察を行い、ヒアリングを実施した。

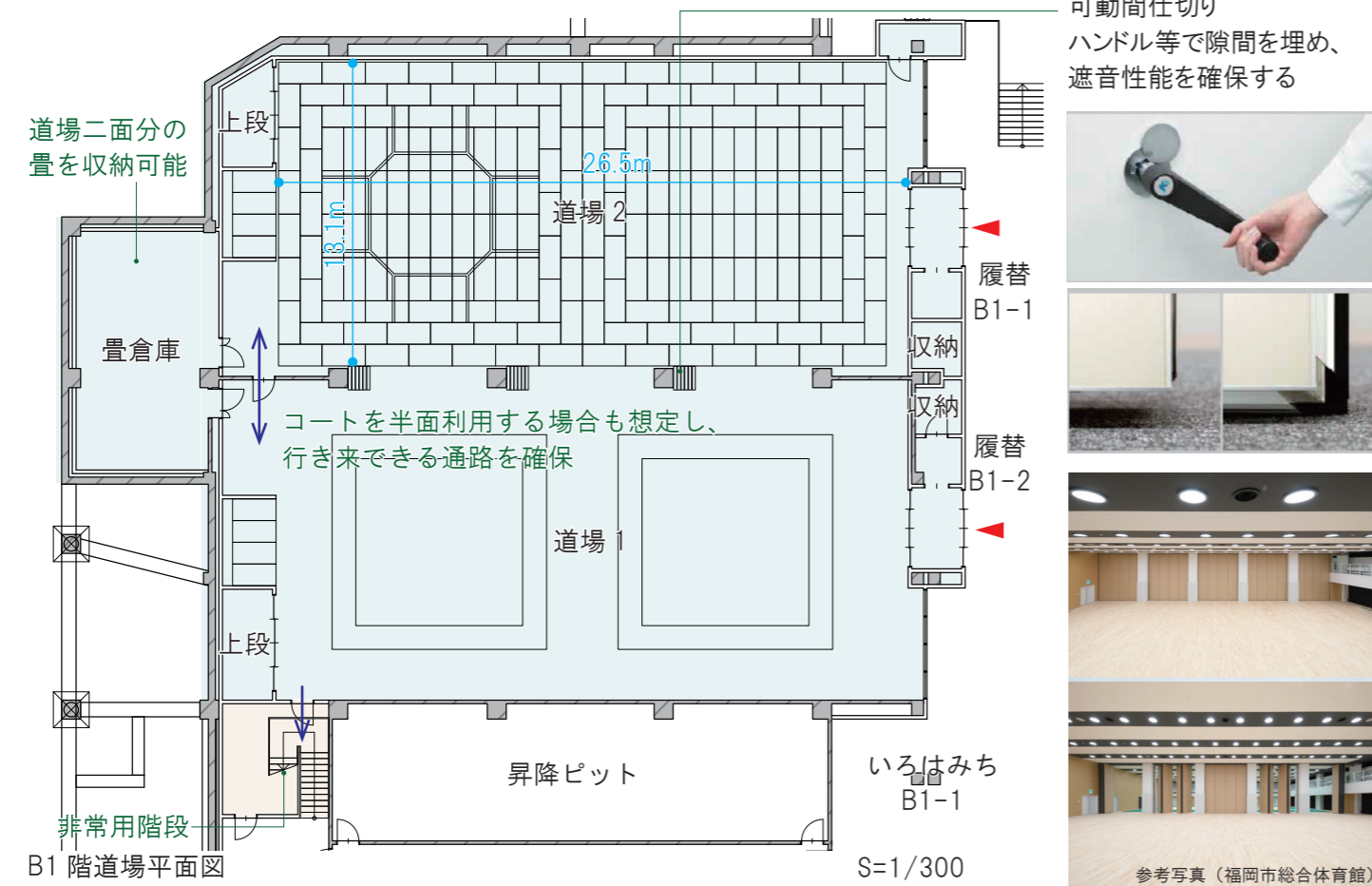
	複合フローリング	スポーツ用長尺弾性塩ビシート	
		7.5mm	2mm
仕様	鋼製床の上フローリング	鋼製床複合タイプ 下張合板(12~15mm)の上塩ビシート	
バウンド	◎	○	○
メンテナンス	○ 水拭き不可。 張り替え目安 10㎡ / 約6日	◎ 水拭きによる清掃が可能。 張り替え目安 10㎡ / 約半日	
コスト(鋼製床込)	○(30,800円/㎡)	△(37,000円/㎡)	○(31,000円/㎡)

4. 各室計画

4-3 各室計画

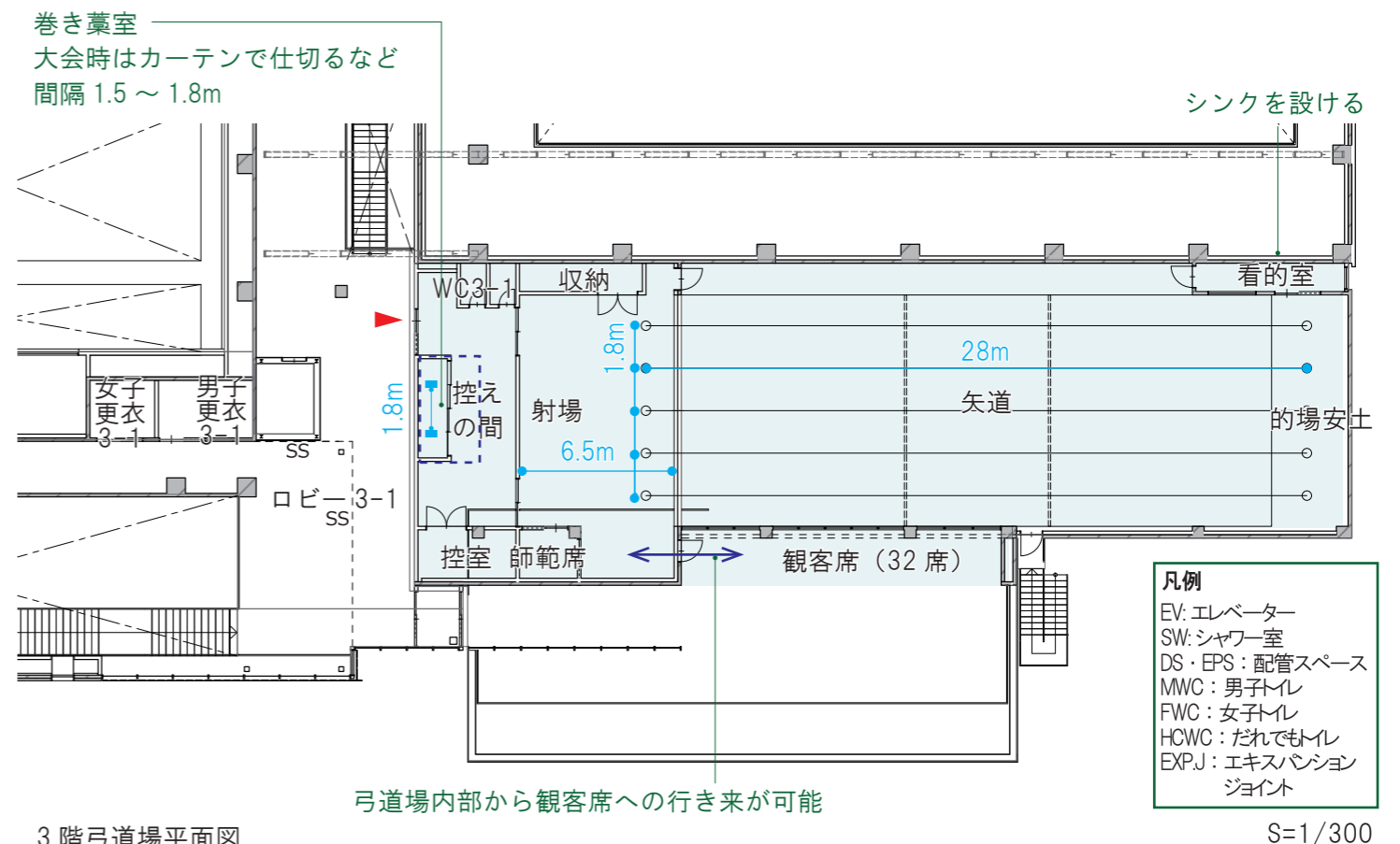
■道場

- ・競技面サイズは 26.5m×13.1m(既存 22.6m×12.9m) を 2 セットとする。
- ・2 つの競技面同士を間仕切り壁で仕切り、一体での利用も可能な計画とする。
- ・可動間仕切りは、遮音性能がある下記の写真のようなものを想定。



■弓道場

- ・射場を 5 人立ちで計画し、各選手間は 1.8m の間隔としている。
- ・弓道連盟へのヒアリングでは、選手間を 1.8m にすること、射場の奥行きを確保してほしいこと、射場の控えの間から本座が見えるオープンなつくり等を要望された。



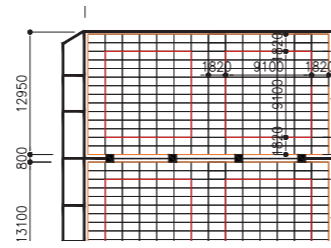
競技	柔道 9.1m×9.1m 4面 障害限度(計画) 場外 1.8m (基準) IJF 主催世界選手権以外では 場内 8×8m、場外 3~4m	剣道 9m×9m 4面 障害限度(計画) 場外 1.5m, H=3.5m (基準) ライン外側から 1.5m 以上	空手 8m×8m 4面 障害限度(計画) 境界線から 2m (基準) 境界線から 2m	躰道 9.1m×9.1m 4面 障害限度(計画) 場外 1.8m (基準) 場外 1.8m	合気道 8.2m×8.2m 4面 障害限度(計画) 場外 2m (基準) なし
コートレイアウト					
要望	■柔道連盟 畳のレイアウトを依頼中。壁材、柱にはケガを防止する緩衝材などを設けてほしい。畳の外に机を置く板間のスペースがほしい。	■剣道連盟 なぎなたは行わず、既存体育館ほど天井高さが不要ない。畳の外に机を置く板間のスペースがほしい。	■空手連盟 空手のコートラインがほしい。→角のみ。畳の有無に関わらず利用する。大会時は、アリーナを利用。	■躰道連盟 畳のレイアウトは柔道に合わせる。試合時は、ラインテープで対応。大会時は 3 面を競技に使い、1 面を審判席とするレイアウトを検討中。	■合気道連盟 畳のレイアウトは柔道に合わせる。

4. 各室計画

4-3 各室計画

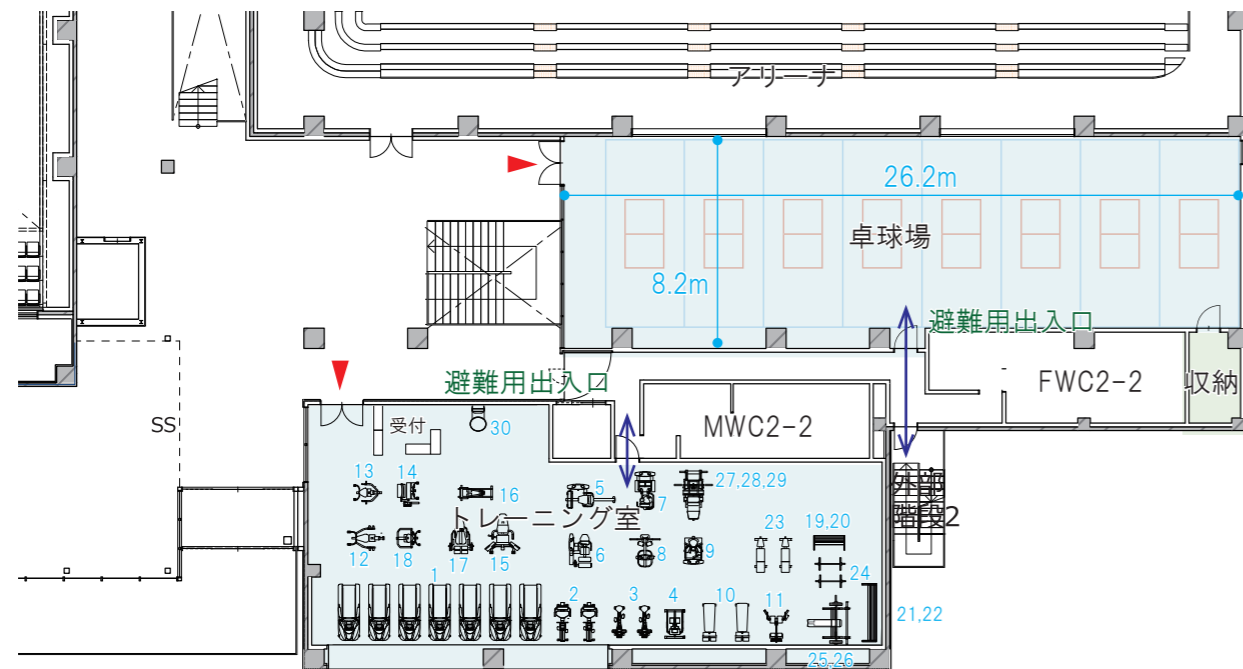
■卓球場

- ・競技面サイズは 26.8m×8.2m とする。
- ・練習用のコートサイズとし、8 台が同時に競技できる計画とする。
- ・卓球連盟へのヒアリングでは、衝突防止の観点から卓球台を一列に並べられる部屋がよいという要望があり、卓球台の配置を決定した。
- ・備品が収納できる収納を設けた。



■トレーニング室

- ・既存体育館の利用状況から、導入必須と推進の要望を受けた 23 台を含めた計 30 台を設置する計画としている。
- ・ランニングマシンから外部を望める配置とした。



2階卓球場・トレーニング室平面図

S=1/300

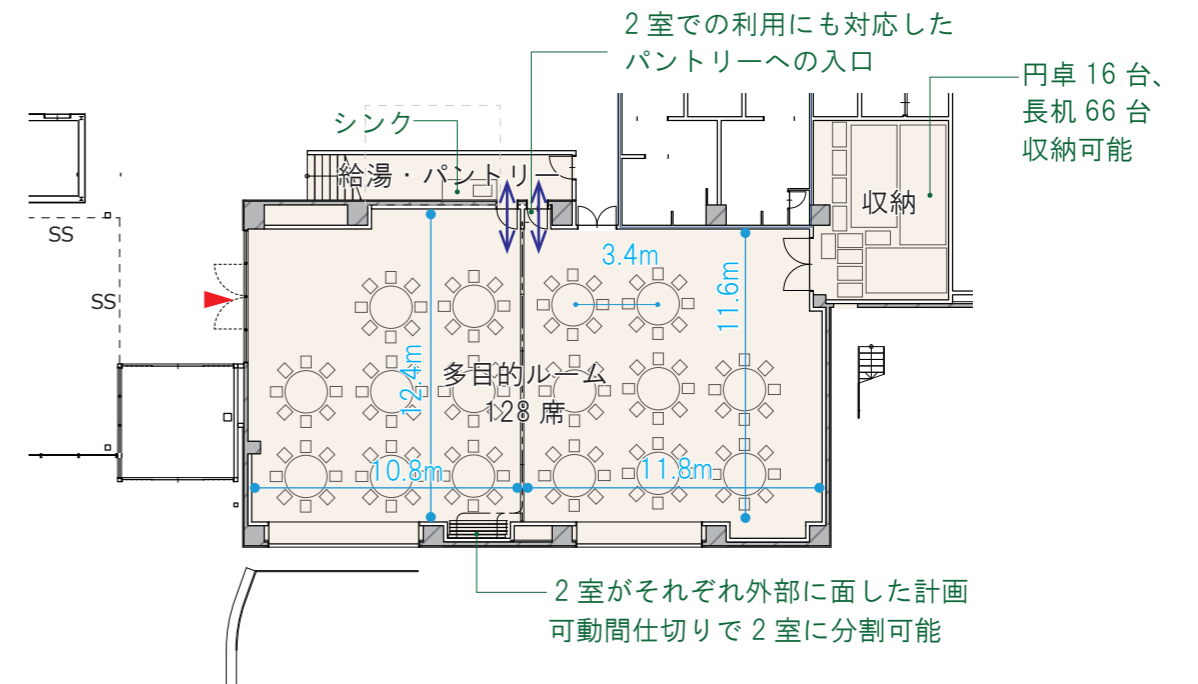
トレーニング機器備品リスト

番号	機器名	番号	機器名
1	ラボードNEXT	16	トリプル・エクステンサー
2	コードレスバイクBFR	17	ニー・エクステンサー&フレクサー
3	コードレスバイクBFU	18	ソラシック・ツイスト
4	エンデュランスステッパー	19	クロームダンベルセット(1~10kg)
5	ファナシスII レッグプレス&カープレイズ	20	ダンベルラック クロームダンベル専用(1~10kg)
6	ファナシスII レッグカール&エクステンション	21	ラバーダンベルセット(12~30kg)
7	ファナシスII アダクション&アブダクション	22	ダンベルラック ラバーセットダンベル専用(12~30kg)
8	ファナシスII ラットプルダウン	23	フラットアジャスタブルベンチ
9	ファナシスII ロータートーソ&ツイスト	24	オリンピックアームカールバー
10	ベントレッガアブドミナル	25	スーパインプレスベンチ
11	45° バックエクステンションベンチ	26	バーベルセット 200kg
12	スキャブラ・プッシュ&プル	27	45° レッグプレスマシン
13	スキャブラ・アップ&ダウン	28	プレートセット 200kg
14	コア&ヒップフレクサー	29	オリンピックスタンダードカラー
15	GM アブダクター&アダクター	30	ベルトトレーナー

各室計画

■多目的ルーム

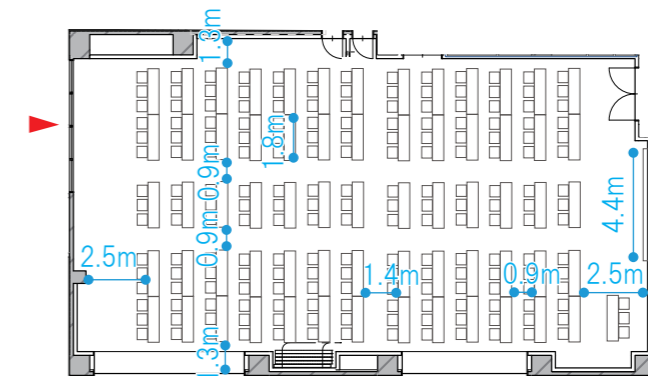
- ・可動間仕切りで2つの空間に仕切ること、約10m×12mの室として利用可能。どちらの室からも、給湯・パントリーへの行き来が可能。外部に面した窓を設ける計画とした。
- ・丸テーブル（円卓サイズφ1800、1台あたり椅子8席、収納時t200）を16台配置できる計画とした。また、長机を200席程度レイアウトが可能な広さとした。



1階多目的ルーム平面図

S=1/300

1階多目的ルーム平面図
(会議机198席レイアウト図)



S=1/300

凡例

- EV: エレベーター
- SW: シャワー室
- DS・EPS: 配管スペース
- MWC: 男子トイレ
- FWC: 女子トイレ
- HCWC: だれでもトイレ
- EXP.J: エキスパンションジョイント

4. 各室計画

4-3 各室計画

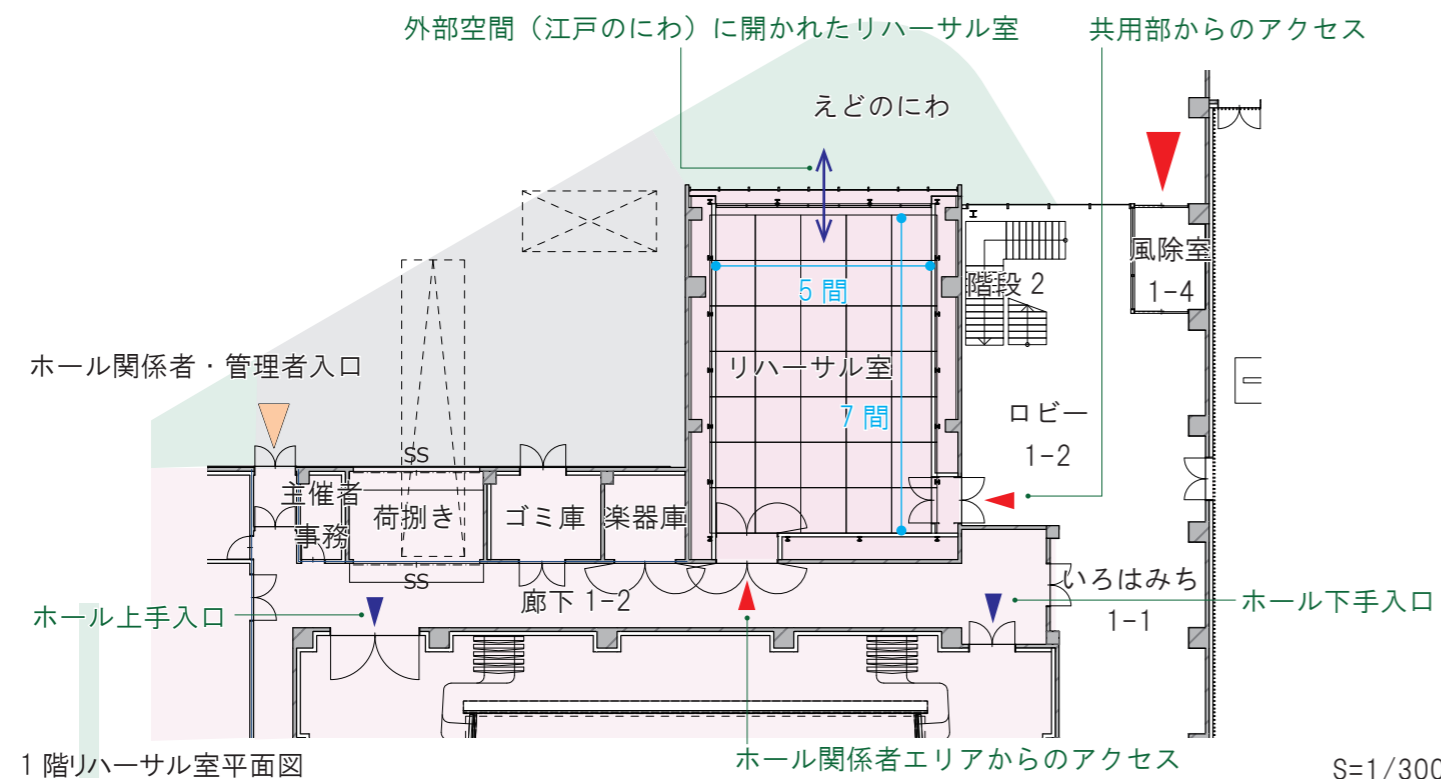
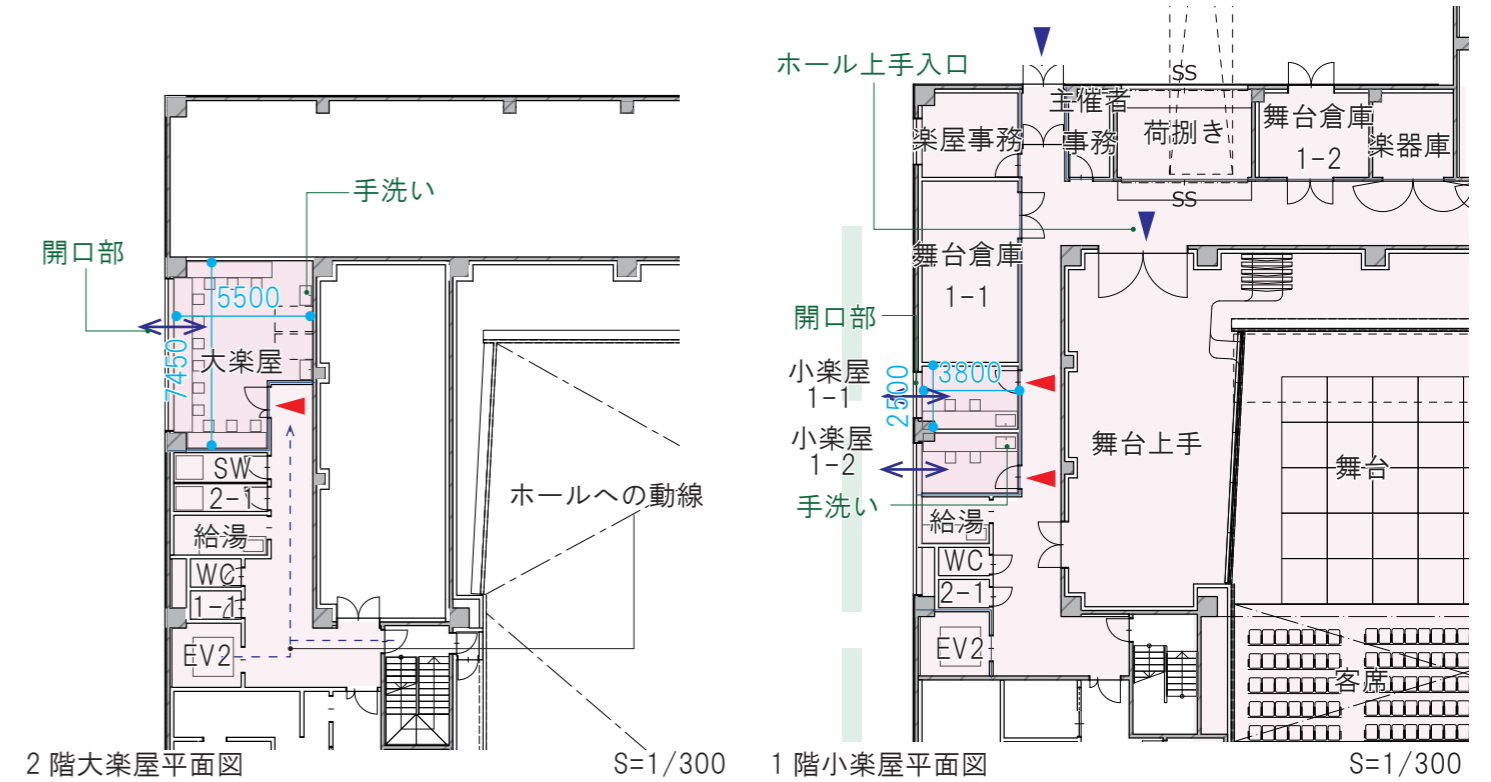
■リハーサル室

- ・ 広さは、5間（9.0m）×7間（12.6m）。防振遮音構造を採用し、NC値 25～30 程度の遮音性能を確保する計画とすることを検討中。床仕上材は、複合フローリングとし、リハーサル以外の多様な用途でも利用できるしつらえとする。



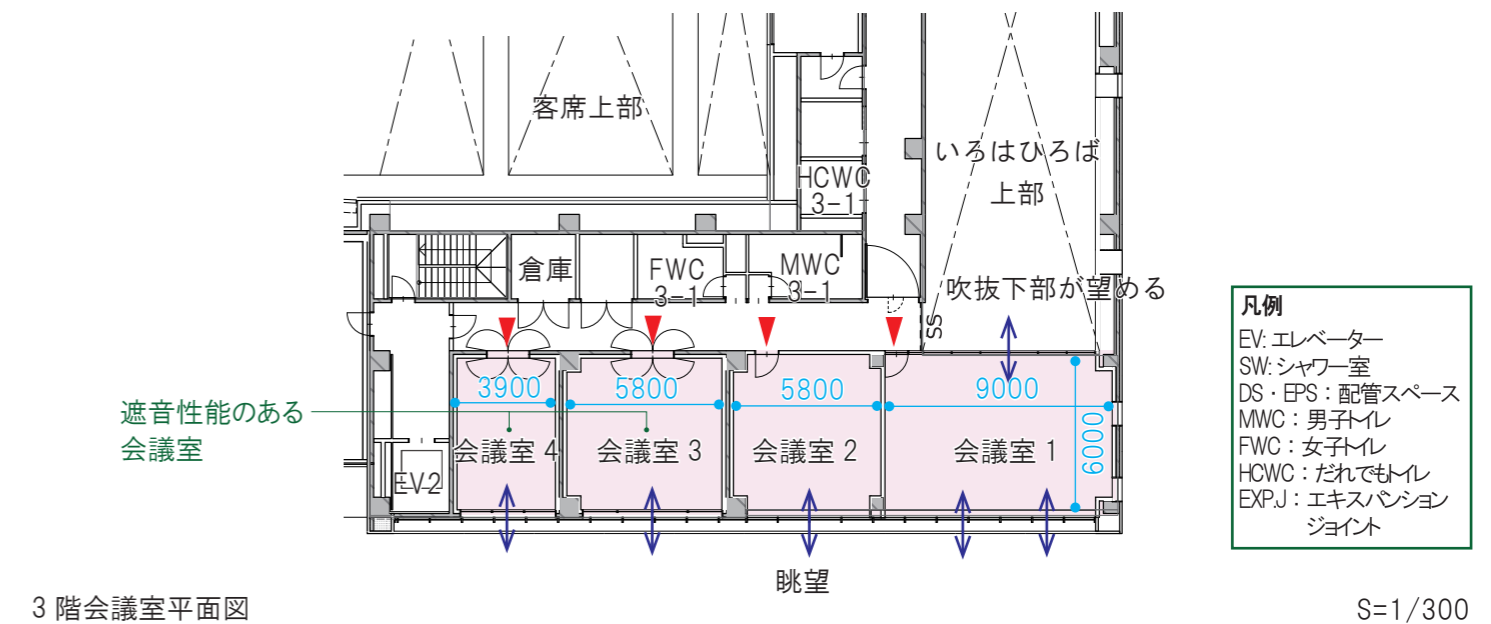
■楽屋

- ・ 基本計画時の要求としては、6人利用×1、10人利用×2の想定であったが、3階の会議室等の兼用を含め、面積削減のため、10人程度利用の大楽屋を2階に1室、2人程度利用の小楽屋を1階に2室計画した。
- ・ 楽屋エリアには、個室のトイレや給湯室、シャワー室を設ける。ホール関係者と観客の動線が交錯しないように、ホール関係者専用として利用可能なEV、階段を設けている。



■会議室 1～4

- ・ 会議室を3階に4室計画する。会議室3,4は防振遮音構造を採用し、遮音性能が確保された室として計画することを検討中。

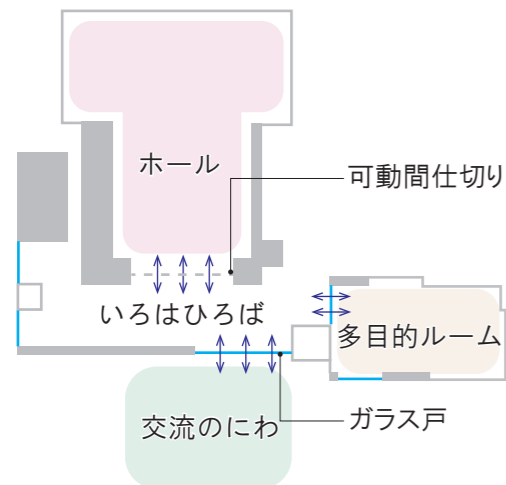


4. 各室計画

4-4 共用部計画

■いろはひろば

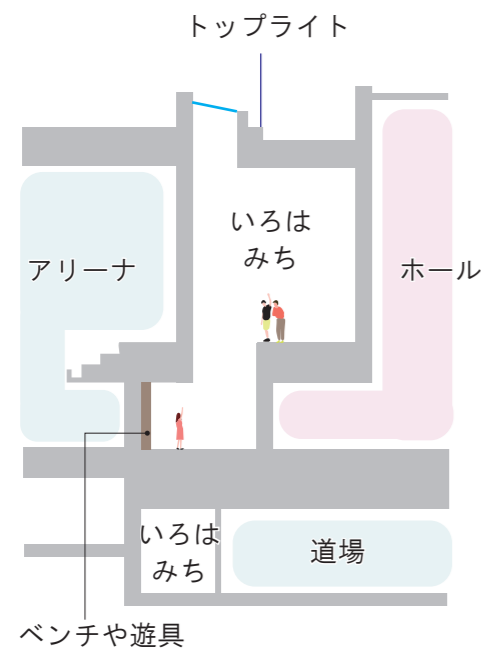
- ・ホールのイベント時にはホールのホワイエとして利用するほか、ホールを平土間にしたときに一体利用ができる可動間仕切りを計画している。また、外部の交流の庭とも開放できるガラスを用いることでさらに外部とも一体利用ができる計画としている。
- ・西側のいろは遊学館からみると多目的ルームまでが一体となってみえることで、開放的な施設の広がりを感じられる。
- ・いろはひろばの具体的な利用方法は第3回、第4回のワークショップより、市民から「本を読む」「カフェスペース」「講演・イベント利用」など文化的な利用方法の意見が出された。



いろはひろばのイメージ

■いろはみち

- ・敷地の南側「交流のにわ」と北側「えどのにわ」を結ぶ通り抜け空間。ホールとアリーナの間にある3層吹抜けの空間にトップライトを設けて、上部から光を入れる。
- ・いろはみちの具体的な利用方法は、第3回、第4回のワークショップより、市民から軽運動ができるような遊具や細長い通りを生かした横丁などの使い方の意見が出された。



いろはみちのイメージ

■ワークショップでの使い方検討

- ・共用部の使い方は第3回、第4回のワークショップで市民から多角的に意見が出された。
- ・基本設計では共有部に余裕を設け、今後の実施設計及び運営の検討で実現性を検討する。

第3回ワークショップ - 新しいホールを使いこなそう！ -

Q1：平土間だからこそできるホールイベントを考えよう

- ・パーティションを閉じた状態では、防音性や遮蔽性の高さを活かした声を出せるイベントや、音と光を活用するプロジェクションマッピング・アートアクアリウムなどの意見が挙げられた。
- ・パーティションを開いた状態ではホワイエや屋外空間とつながる広さを活かした立食パーティやバザーなどの案が出された。オリンピック競技となるダンス大会や志木市らしいカパルファンに向けたイベントなど、既存のホールのイメージにとらわれない多彩なイベントが提案された。

Q2：様々な立場になりきってイベント計画を立案しよう

- ・パルシティからホールに開催場所が変わることで使用料が高くなる美術協会展に、Q1で提案された多彩なイベントを掛け合わせることで集客力と収益性を高め、相乗的に賑わいを生み出す複合施設ならではの計画が提案された。
- ・舞台設備を活かせる点や、ホール全体を舞台として利用することで一般の舞台より広くできるという点を考慮し、動画配信ライブが提案された。ホールの様子をアリーナで流すことで大人数で視聴できるのではないかと案や配信の視聴方法が分からない人に対するサポートを求める意見も寄せられた。



様々な立場になってイベントを計画



共用部のホール利用事例



平土間になったホールの事例

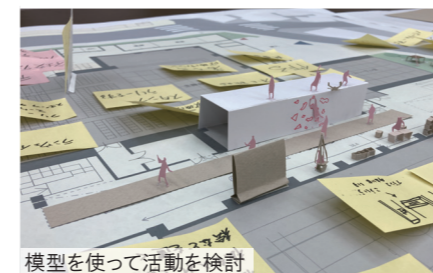
第4回ワークショップ - いろはみち・いろはひろばを使いこなそう -

Q1：いろはみちの使い方を考えよう

- ・柱の間を用いた雲梯（うんてい）や、吹き抜けを使った巨大なブランコ、道を横断するネットなど、細長いいろはみちの特徴を活かし、子どもから高齢者まで体を動かせる意見が多く挙げられた。
- ・吹き抜けを利用したボルダリングやバンジー、ランウェイなどアクティブに活動できる空間としての提案や、地元小学生の絵を飾るなどの展示の場としての提案が寄せられた。
- ・壁面を生かしたプロジェクター投影や、柱間の空間を生かした無人販売や展示場所としての提案が寄せられた。

Q2：いろはひろばの使い方を考えよう

- ・広い空間を生かした立体物の展示や、大きな本棚など、文化的な営みを目指す案が挙げられた。「リサイクル本を持ち寄る」、「わいわい喋れる自習スペース」など、いろは遊学図書館との差別化も考えられた。
- ・いろはみちと比べて人が集まる空間としての利用に焦点を当て発表会やパーティ、待合せ場所としての利用が提案された。
- ・机や椅子を設置し、カフェテリアや学習・仕事スペースの機能、スポーツ体験、有料のアリーナやホールに比べて、気軽に市民の発表ができる場や立ち寄れる空間の提案が寄せられた。



模型を使って活動を検討



アスレチック機能事例



共用部の多目的利用事例

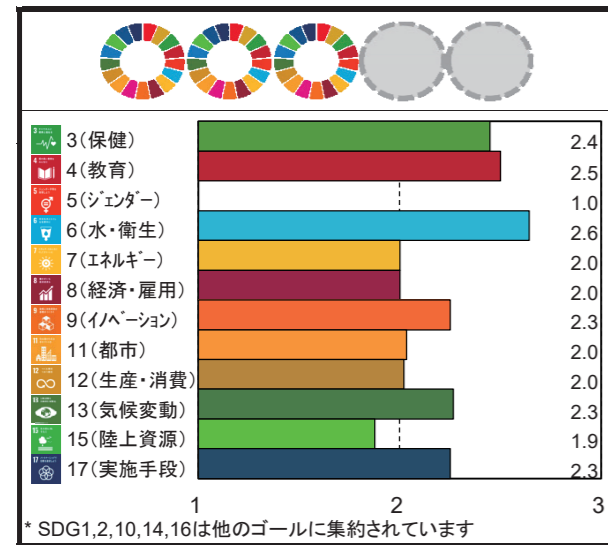
5. 設計根拠及び技術資料

5-1 SDGs 検討

■基本設計建物での SDGs 試算検討

・計画中の建物で試算した結果、以下の通りとなった。

建築環境 SDGs チェックリスト評価結果



5-2 BCP 計画

■志木市地域防災計画

・地域の防災機能向上に配慮した施設の防災計画を行う。

①自助、共助による取り組みの推進

自助、共助の重要性に配慮し、日常的に地域の方々が減災のための活動が行える拠点となる施設計画とする。

ex) 耐震計画、二次部材等の落下防止対策

②男女共同参画の視点

発災時のジェンダーレスにおけるプライバシー確保の視点から、一部の衛生施設を開放した運営が行える施設計画とする。

ex) 衛生施設関連の維持（飲料水、電源等の確保）

③広域的な視点

志木市と防災協定締結先との救援物資の集配拠点となりえる施設計画とする。

ex) 駐車スペースの確保、通信の多重化

④人的ネットワークの強化

発災時に馴染みのある空間や施設の理解を深めるために平時から地域のコミュニティの場として、わかりやすく開放的な施設計画とする。

ex) わかりやすいサイン計画、ユニバーサル計画

⑤計画の効果的推進に向けた取り組み

発災時に柔軟かつ迅速な対応を行うために、平時から地域と連携した避難活動訓練などが行える施設とする。

■耐震性能設定

・本施設は避難所機能を有する事から、耐震安全性の分類は、国土交通省の指標及び基本設計特記仕様書に基づき、構造体Ⅱ類、非構造部材 A 類、建築設備乙類と設定します。また、この設定に伴い、エレベーターの耐震クラスは A とします。

■被災想定と対策

・地震対策

本施設は、救援物資の集積場所や避難所となるなど防災活動の拠点施設という位置づけとなることから「耐震構造」を適用する。

・停電対策

自家発電機燃料は 72 時間外部からの供給なしで継続運転可能な備蓄量とする。発電機容量は主要な居室を対象に設定し不足分については外部電力供給車から供給可能な設えとする。

・火災対策

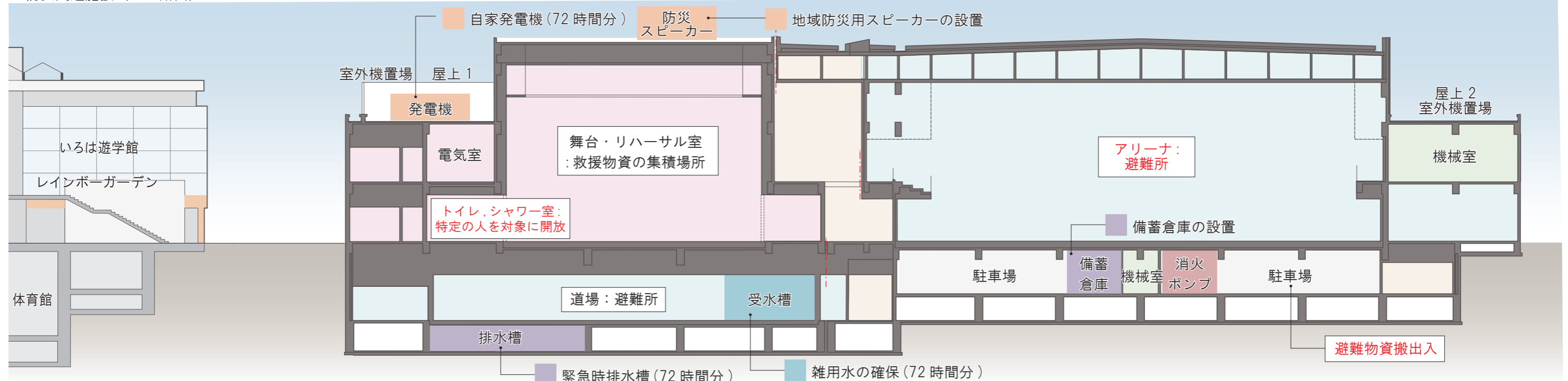
全館スプリンクラーを設置し、火報連動させ初期消火を行う。

■インフラ計画（機能維持）

・災害事象時における被災想定をおこない、近隣避難所と連携した備品管理や供給を行う。なお、供給車による水槽供給は行わないこととする。特設公衆電話は、事務室南側の階段ロビー周辺に設置するとともに 2 回線用意する。

	3 時間以内	6 時間以内	12 時間以内	24 時間以内	72 時間以内	1 週間以内	1 ヶ月以内
災害時対応業務	発災後対応						
ライフライン	商用電源	発電機からの電源供給 (72 時間備蓄燃料)				燃料補給による運転	
	上水	受水槽からの供給 (72 時間分貯蔵)				ペットボトル等による対応	
	排水	バキュームカーによる対応					
	都市ガス (低圧)	ガス本管状況に応じて継続利用					
	通信	利用可能な通信機器より活用					
	昇降装置	点検後、復旧					

■防災関連施設 (BCP 断面)



BCP 断面図 S=1/300